

医療廃棄物容器にセットするだけ

近づくと自動開閉

産学・医工連携 米子3企業開発 より安全で効率化

既存の医療廃棄物容器に「山陰産学・医工連携推進」セッとする人の近接を感 協議会の賛助会員である米 子市の企業3社などが開発 る装置を中海・宍道湖・大し4日、境港市内で発表し



開発した医療廃棄物容器の電動開閉装置を披露する 関係者ら。4日、境港市役所

た。足で踏んで開閉する従 来品より安全性が高く、踏 む労力がなくなることので 効率化も図れるという。

開発した医療廃棄物容器 電動開閉装置はコンセント 接続やバッテリーによる電 動方式で、キャスター付き のため移動も可能。3種類 の医療廃棄物容器に対応 し、正面のセンサーが感知 してふたが開く。

同圏域市長会の委託を受 けて圏域の医療機関や福祉 施設などのニーズと地元 のものづくり企業の技術をマ ッチングする同協議会に鳥 取県済生会境港総合病院が 企画提案し、カノン、ニシ モト、日本マイクロスステ ムの3社が同病院との共同 研究で開発した。

関係者が市役所を訪れ、 伊達憲太郎市長に完成品を

日本海新聞 (令和4年11月5日付) [掲載許可済]

掲載された新聞記事

披露。図面製作などを担っ たカノンの竹本利治社長は 「現場で助言を聞き、問題 点を一つずつ解決して完成 した。小回りが利くのは中 小霧細の強み」と話した。 同病院では7月から試作 品2台を使用しており、提 案した津田公子副院長は 「医師や看護師から防護服 を脱ぐときや注射器を捨て るときなどに使いやすいと いう声を聞く」と喜んだ。 同病院には年内に約10台を 納入する予定。今後、一般 販売を検討するという。 (井川朋子)

山陰中央新報 (令和4年11月10日付) [掲載許可済]



人の接近を感知してふたが自動開閉する装置—境港市内

ふた自動開閉で衛生的

米子の製造業と済生会境港病院

医療廃棄物の容器収納装置開発

米子市の製造業など3社 が、鳥取県済生会境港総合 病院（境港市米川町）との 医工連携で、医療廃棄物の 専用容器を収納するふた付 き装置を共同開発した。ふ たは自動で開閉するため、 容器に手を触れることな く、安全で衛生的に処理で きる。年内に10台を同病院 に納入し、さらなる販路拡 大を目指す。

装置は高さ75センチ、幅45センチで、内部に収納する市販容 器は3種類の大きさに対応 する。前面に配置したセン サーで人の接近を感知して ふたを開け、人が離れると 数秒後に閉まる。

一般的な足踏み式の開閉 装置では、従事者が体勢を 崩し、使用済み注射器など を床に落とす心配があった という。同病院が市民でつ

くる中海・宍道湖・大山圏 域産学・医工連携推進協議 会（坂口平兵衛会長）に昨 年7月に開発を打診した。

既に医療分野で協業して いた縫製業カノン（米子市 八幡）と設備設計製造の日 本マイクロスシステム（同市 夜見町）、技術コンサルタ ントのニシモト（同市米原 6丁目）が試作し、同病院 で試験運用。センサーの位 置や部材形状を改良して納 入することになった。

市販化に向け、販売価格 などは今後詰める。カノンの竹本利治社長は、医療現 場の声を反映した改良を重 ねた経緯を振り返り「小回 りが利くのが中小企業の強 みだ」とアピールした。

(松本稔史)

山陰経済 Sanin Economy